

8月の安全運転のポイント 平成22年8月号

8月はお盆の時期を中心に帰省や行楽で高速道路を利用される方も多いでしょう。安全で快適な走行を確保するためには、余裕を持った計画を立てるとともに、走行中の車両トラブルを防止することが重要です。また、高速道路にはETC搭載車両の利便性の向上を図るために、各地にETC搭載車両のみが利用できるスマートインターチェンジが設置されていますが、通常のインターチェンジのETCとは利用方法が異なる点があります。

そこで今回は、高速道路での車両トラブルの防止とスマートインターチェンジの安全な利用についてまとめてみました。



高速道路での車両トラブルの防止

平成21年度の高速道路における「JAFロードサービス救援依頼内容」（4輪）の上位5つをみると、「タイヤのパンク」が最も多く、次いで「燃料切れ」となっており、この2つで全体の4割強を占めています。

したがって、特にタイヤと燃料のチェックをしっかりと行うことが大切です。

■平成21年度JAFロードサービス救援依頼内容(高速道路)

順位	救援依頼内容	件数	構成率
1	タイヤのパンク	31,143	27.9
2	燃料切れ	16,254	14.5
3	事故	11,855	10.6
4	過放電バッテリー	8,052	7.2
5	キーの閉じ込み	2,380	2.1

*タイヤのパンクには、バースト、空気圧不足を含みます。

タイヤのチェックポイント

タイヤの点検では、特に次の点がチェックポイントになります。

●空気圧は適正か

適正な空気圧は、車の取扱説明書や車のドア付近に表示してあります。走行前のタイヤが冷えているときに空気圧をチェックし、適正な空気圧に調整しましょう。ガソリンスタンドなどでチェックしてもらうのも一つの手段です。

●亀裂や損傷、異常な磨耗がないか

タイヤのキズや磨耗はパンクの原因となります。キズや磨耗を発見したときは、整備工場に相談しましょう。

●残り溝の深さは十分か

タイヤの残り溝が1.6ミリ以下になると、タイヤの▲で示された位置の溝が途切れてスリップサインが現れます。スリップサインの現れたタイヤは法令で使用が禁止されていますから、交換する必要があります。



燃料切れ防止のポイント

燃料切れを防止するためには、出発前に必ず燃料のチェックをするとともに、残量が少なくなってきたときには早めに給油を行うことがポイントになります。高速道路での給油は、サービスエリア等のガソリンスタンドの閉鎖にも留意する必要があります。実際、「前回走行したときは〇〇サービスエリアにガソリンスタンドがあったから」と、そこで給油を予定して走行したところ、ガソリンスタンドが閉鎖されていたため給油ができずに燃料切れに陥ったというケースもあります。給油の計画は余裕を持って立てるようにしましょう。



スマートインターチェンジの安全利用のポイント

スマートインターチェンジとは、高速道路のサービスエリアやパーキングエリア、インターチェンジ間などに設けられたETC車載器搭載車両専用のインターチェンジで、現在、全国で約50か所に設置されています。サービスエリア等から高速道路への出入りができるため、上手に活用すれば効率的なドライブができ、たいへん便利です。

ただ、スマートインターチェンジは、通常のインターチェンジとは利用方法等で異なる点がありますから、その点をよく理解して安全に利用することが大切です。

利用条件等を確認する

スマートインターチェンジはETC車載器搭載車両専用ですから、ETCを搭載していない車両は通行できません。また、利用できる車種が限定されている箇所（例えば「二輪車、軽自動車、普通車（車長6.0m以下）」など）や、出入り方法が限定されている箇所（例えば「〇〇方面への入口、〇〇方面への出口のみ」など）、営業時間が限定されている箇所（例えば「6～22時」など）があります。

スマートインターチェンジを利用する場合は、各高速道路会社のホームページ等で、利用条件をよく確認しておきましょう。また、スマートインターチェンジ付近には案内標識が設置されていますから、その標識にも注意しましょう。



スマートインターチェンジでは一時停止をする

通常のインターチェンジのETC専用レーンは、時速20キロ以下の速度で停止せずに通過できますが、スマートインターチェンジの場合は、開閉バーの手前で必ず一時停止しなければなりません。一時停止をせずに進行するとバーに衝突する危険があります。



サービスエリア等では歩行者に注意する

サービスエリアやパーキングエリアに接続しているスマートインターチェンジを利用する場合は、車両だけでなく歩行者にも注意を払う必要があります。サービスエリアやパーキングエリア内の歩行者は、車に対する警戒心が薄れがちになり、車の接近に気づかないことがあります。

したがって、スマートインターチェンジからサービスエリア等に入るときは、いつでも停止できるよう徐行するとともに、歩行者の動きに十分目を配ることが大切です。



「ご相談・お申込先」